



村都整第68号  
平成19年5月2日

国土交通省道路局長 様

新潟県村上市長 佐藤 度



日本海沿岸東北自動車道新潟・山形県境部早期整備着手のため、道路整備中期計画に明示のお願い

日本海沿岸東北自動車道は新潟県新潟空港を起点とし、青森県青森市を終点とする延長 322km の高速道路です。新潟県では新潟空港～中条間が既に供用され、中条～荒川間、荒川～朝日間をそれぞれ有料方式及び新直轄方式で整備しています。また、山形県では温海～鶴岡間が新直轄方式により整備が進められています。

しかし、新潟・山形県境区間である朝日～温海間については基本計画区間のまま、未だ整備の見通しが立っていません。

現在、新潟・山形県境部は国道7号だけの単線区間となっており、災害等によりひとたび交通が遮断されればその影響は非常に大きなものとなってしまいます。現に平成17年8月に、新潟県朝日村大須戸地内では集中豪雨によって完全に交通がストップし、平成18年7月には、山形県鶴岡市小岩川地内の土砂災害により国道7号が約41時間にわたり寸断され、さらに平行する羽越線復旧工事の影響もあり、全面開通までには実に13日間を要し、各方面に多大な影響を与えました。幸い人的被害はなかったものの、災害時の救急搬送や物流等、代替路線の確保の必要性を痛感させられる結果となりました。

現に、平成16年の新潟県中越大震災においては、あらゆる交通手段が寸断する中高速交通網の代替え路線が整備されていたことから、救急搬送・緊急物資の輸送には大きな力を示した事は、記憶にも新しいところです。

当圏域は、来年4月1日に市町村合併し、山形県境までを含む新しい市としてスタートを切ることになりますが、南北に約60kmと長く面積も非常に広い市となります。

新市の基幹道路であると同時に、救命救急センターへの搬送時間の短縮にも欠かせない、正に「命の道」でもあるのです。

当路線は、日本海側国土軸を形成する重要路線であるにもかかわらず、供用区間は途切れ途切れとなっている状況です。地域格差是正のためにも、基礎的な社会資本としての本路線の一体的整備は、必要不可欠です。

日本海沿岸東北自動車道が整備され全線が繋がれば、

- ① 日本海沿岸地域の交流が盛んになり活力が生まれます。
- ② 関西圏まで市場がひろがります。
- ③ 新たな観光ルートが生まれます。
- ④ 医療連携により救急救命率が向上します。
- ⑤ 災害時に安全な道の確保ができます。

現在、一部では整備を後回しにされた高速道路については不必要な道路であり、整備すべきでないといった意見もあります。

しかし、高速道路はつながってこそ本来の効果が発揮されるもので、途切れたままでは十分な効果は望めません。地域住民が真に必要としている道路です。

中期計画に組み入れてもらわなければ、整備は又遠のいてしまいます。中期計画には是非とも組み入れていただき、早期整備をお願い申し上げます。